

職場参加ニュース

障害のある人もない人も共に生きる職場・地域を

今年もよろしくおねがいします

ピアサポートによる職場参加プラットフォーム 世一緒です



共に働く場見学・交流 秋のワンデイツアー。八王子市・結の会はこれが二度目。多摩市のあしたやは初めての訪問。沢山買い物しました。(11.17)



地域適応支援事業の実習で、ピア支援パートナーが活躍！

共に働く街を創るついで2015。障害者、高齢者、子ども、困窮者を含め、共に生きる地域への支援のありかたを職場参加をめぐって。(12.13)



寒中お見舞い申し上げます。

11月にニュースをお届けしてから、大きな行事が続きました。今号でご報告しますが、紙面の都合で簡単な記事になっております。詳細な記録はDVDも含め、当会にありますので、関心のある方はどうぞご連絡下さい。

年が改まってから、近隣各市の首長を訪問し、暮れにまとめた提言を手渡し、意見交換を行っています。他にもいろいろ忙しい日々を送っています。

当会の活動は、原則、会員以外の方も参加できますので、どうぞご連絡下さい。

出会いの
季節な
ぎ新年へ



第2回介護人養成研修事業(12.13)をNPO法人かがし座のケアシステムわら細工と連携して実施。新聞でも報道されました。(10.23~12.4)

世一緒 de キネマ

働いている人や夜型の人でもこれならOK!!
毎月ほぼ第2木曜 19:00~
軽食付き300円
映画も食事もおすすめメニュー
(シェフ・吉田弘一元就労センター所長)
048-964-1819 に確認の上どうぞ

世一緒
スタイル

越谷・水辺の市

2月9日(火)、3月8日(火)、
4月12日(火) 10~15時
(荒天の場合第3火曜に順延)
市役所東側 葛西用水ウッドデッキで



どうよう世一緒

特にプログラムは作りません。ぷらっとどうぞ。午後は閉める時もあるので、ご了解を。

月に1回土曜日。
世一緒を開けます。10:00~



定番メニュー(一部)

世一緒当番: カギ開閉、掃除、電話連絡、来客対応、事務補助...

(就労準備中の障害者がペアで)

見学・交流: 就労準備中の障害者がグループで、企業、施設、団体等を訪問。ニュースで報告。

身近な仕事起こし: 世一緒にエントリーしている障害者がグループで行う仕事を企業や個人から募集するミッション。

い
2
0
1
5
を
創
る
つ
ど
共
に
働
く
街



高齢者、障害者、困窮者…孤立・分断こえて
共に生きる地域と障害者の職場参加 語り合う

紙面の都合で、要約のみご報告します。「つどい」は16年目になります。当会は地域の重要な要素として職場を位置づけ、重度障害者を含む職場参加を進めてきました。この16年で障害者雇用が拡大した半面、「雇用身分制社会」と呼ばれる状況も深まりました。今回は「地域」、「職場」をあらためて問い直しました。千葉の報告も大いに参考になりました。ご参加、ご協力いただいたみなさまに感謝いたします。

【権利擁護事業】当事者の立場に付き合っ

■虐待防止法の対象になるもの
(児童・高齢者・配偶者・障害者)
→入口・生活支援・周辺環境の整理
加害者支援・アフターフォロー

■法律の対象になりにくいもの
→グレーゾーンの方
→家族間の問題・経済的問題
セルフネグレクト・医療放棄・長期入院



特別報告：中核地域生活支援センターについて

千葉県・中核地域生活支援センター長 生ひなた所長 渋沢 茂さん

こども、障害者、高齢者を含め対象を限定しない地域生活支援の県単独事業を10年受託している。

相談事業は障害者が最も多いが、次は「その他」、そして高齢者、こどもの順。昨年は「その他」が20%。外国人、未障（障害未満）、グレーゾーン、金に困っている人など。相談の方法は電話の他、出かけることも多い。一緒に役所に行くとか、病院に行くとか、ご飯を食べに行くとか。

24時間相談を受けている。当初は深夜帯に「ちょっと淋しくなって」という相談が結構あったが、日中に関わってその人の生活基盤をつくっていく中でそういうのがなくなってきた。センターは風呂付きで泊れるようになっている。救急車の搬送先が難しく、一緒について行かないと受け入れてくれず、一緒に行つて帰りはセンターに連れて帰るということもある。

権利擁護事業として、児童相談所などと連携しながら、入口・生活支援・周辺環境の整理、また加害者支援などを担っている。そのほか、こうした法律の対象になりにくいグレーゾーンの人やセルフネグレクト、施設生活の問題なども。地域総合コーディネート事業として、地域の機関や組織、人をつなげ、地域・人の福祉力を掘り起こす。役所の人と話していたら、地域の中での連携より庁舎内の連携のほうが難しいと言っていた。福祉と医療の勉強会や弁護士・司法書士などとの勉強会も公開で行っている。

中核地域生活支援センターの活動の特徴は、「うちの仕事じゃない」といった断り方をしない。権限を持っていないので、相手の話をよく聞き、一緒に出かけたりしながら、それを地域の課題としてあげていく。

パネリストの活動紹介：

芹沢由和さん（ワーカーズコープ北関東事業本部・さいたま市南地域福祉事業所所長）

ワーカーズコープのさいたま南地域福祉事業所では、戸田の学童保育「そら」と地域の支え合い活動「ぼけっと」が、協同労働の賛同者の縁で見沼田んぼで一緒に畑作業をしている。発達障害や性同一障害の子もおり、多世代の支え合いのような形でやっている。

坂本剛一さん（社会福祉法人越谷市社会福祉協議会地域福祉課副主査）

社協の支え合い・助け合い活動として、公民館等でのふれあいサロンやふらっと蒲生、ふらっと大袋という立ち寄れる場所がある。高齢者施設でボランティアすることでスタンプをもらい、たまると換金できる。越谷市の地域福祉計画と連携した地域福祉活動計画がある。

吉田久美子さん（NPO法人共に生きる街づくりセンターかがし座理事長）

地域活動支援センターの通所者「幹也くん」は前に入所施設で暮らしていたため、金銭感覚が身についていず、コンビニで弁当を温めてもらった後金が足りないことがわかったりする。本人、支援者、コンビニ各々が試行錯誤しながら、みんなが生きやすい地域を探っている。

阿久津和子さん（ケアマネージャー、越谷市障害者就労支援センター元支援員）

障害者の働きやすい時間は、自分のような障害者の親にとっても働きやすい時間だった。高齢者施設に障害者と同行し、一緒に清掃、厨房補助等できたのがうれしい。高齢者、障害者の制度利用が進んだ半面、ひなたぼっこのような場がなくなった。地域の関わりがあれば迷子になってもわかり、今の生活をそのまま継続できるのに。



パネルディスカッション



コーディネーターの朝日雅也さん（左端・埼玉県立大学教授）からは、パネリストのみなさんに向けて、**1) 地域のイメージ 2) 職場参加という活動について 3) 具体的になすべきこと**の順に、課題が示され討論が行われました。

阿久津さん：1) 入所施設は地域と言えない。家族、近所、買い物や床屋など、いろいろな人と関わりを持てる場所。2) 世一緒の障害者スタッフ・ペアが飛び込み訪問で高齢者施設での実習を開拓し、就労にもつながった。アウトリーチしてゆくことにより小さな事業所でも働ける職場があることが分かった。3) 制度だけではだめ。点と点から面にしてゆくこと。

吉田さん：1) 地域は各々が住んでいる所。居住地域へのアピールはそこに住むご近所に声を掛けたり、販売活動を一緒に。2) 地活センターで近所の塾、工務店、議員等のチラシのポスティングを請負い、他団体と共にやることで交流や情報交換ができ、商店会から福引のポスター作成の依頼がある。障害分野だけでなく異業種とつながる上で、仕事が生きている。3) 些細な出来事でも自分達で抱え込まず、発信することでつながれる。

芹沢さん：1) ワーカーズは人と地域に必要なことを仕事として起こすという発想を持っており、生活空間・生活を一緒にできる仲間がいる範囲。2) 畑の指導をしている人から大根やねぎの販売をしてお金にしないかと提案があり話し合っているが、「半就労・半x」みたいな形でできることを組み合わせて探っていくような関係。3) 昔ながらに七輪を囲みながらお茶でも飲もうといった形で地域のつながりを。

渋沢さん：1) 1万人の茂原市では年間に生まれる子供が100人で、保健師が誰でも知っているという意味でいいが、自治体としてもつかどうかかわからず。中核センターの圏域である長生郡15万人ならばショッピングセンターも一緒に、困ったとき風のうわさが耳に入って来る。2) 一般企業で障害者が集まって働く場に関して内容的にはともかくいい給料が得られ、モチベーションになる人もいる、商工会の人と障害者の仕事について話すとこちらも大変だと言われる、なんでもいいから参加というのではなく、互いにマッチングしてゆくように。3) 事業が出来たからといって地域が変わるわけではない。良質な活動を続けてゆくことが大事、福祉だけでは難しい。地域の主流の層の人達はマイナーな活動に親和していけない、違う存在と認識し、まずはつながること。

坂本さん：1) 障害者や高齢者などさまざまな人々が一緒に暮していければそれが地域。2) ともしれば支援者側の理屈に基づいて支援してしまう傾向があるが、就労支援センターの職員に聞いたところ、本人の意思を尊重した伴走型の支援をしてゆくんと言っていた。3) あらためて社協職員として人と人のつながりを大事にして行くことを感じた。これからも地域の人達の力が大事になるのでボランティアセンター等の活用を。

会場からの質問

大坂さん：渋沢さんの特別報告にあった、権限をもっていないから関係性でという関わり方に共感を抱いたので、詳しく聞きたい。

冲山さん：それに関連して、権限がある所が厄介な仕事をしていて業務が進まないという感想をもっているか。

渋沢さんの回答

生活困窮の自立相談の事業をやっているが、市がやっている住宅扶助・家賃助成の仕組みや社協の貸付について、自立相談センターのプランが必要。その意味で権限があるためその目的で来る人が多く、逆にそれらを利用する目的以外だとうちの対象者ではないということになりやすい。比べると中核センターは権限がないからこそ本人にどうやって受け入れてもらうか、手順を踏まざるを得ない。そこが横並びで心地よかったりする。

コメントから



神 勝彦さん（越谷市福祉推進課調整幹）：あらためて地域福祉は街づくりという認識をした。私たちは地域が作る風土や文化に支えられながら自我を形成しやすらぎを得ている。高齢者支援ということで、サービスを提供する側も受ける側も生活実感を共有する空間で行うシステムを有償で計画しており、これはさまざまな人たちの就労機会の確保にもつながる。



角屋 亮さん（越谷市障害福祉課副課長）：障害者雇用、就労移行支援や就労継続支援が進められてきたが、それらにはまらない人、一般就労をめざしつつなかなか一般就労につながらない人はどうするか。市では就労支援センターで一般就労支援と地域適応支援（職場体験）の事業を展開しているが、一般就労と職場体験の中間を持ち合わせていない。超短時間就労といった働き方や有償ボランティアで働く体験などのしかけをみなさんと一緒に市の事業として展開できないか、ずっと悶々としているが、今日の集会に出てあらためてその気持ちを強くした。

2015年度共に働く街をめざす提言（要約）

昨年暮の「共に働く街を創るつどい2015」の成果と日常の取組を踏まえ、地元自治体への提言をまとめました。今年も近隣各市の首長にお会いして、直接お渡しし意見交換を予定しております。

記

① 地域の学校での支援はナチュラルサポートを基本に

少子高齢社会において、地域の学校が重要な位置にあることは言うまでもありません。共に働き共に暮らす社会は、幼い頃から共に育ち共に学ぶ関係の中でこそ育まれるからです。文科省自ら「保護者の付添は今後も合理的配慮の提供において一つの論点」と述べていますが、地域の学校で付添が日常的に強いられたり、校外行事などで毎回付添が求められる背景には、この子は本来別の場に行くべき子どもではないかとか、障害のある子には親か支援員等しか関われないといった固定観念が根強くあります。

障害のある子どもをクラス、学校の欠かせない一員として受け止め、子ども達が共に学び育つことを基本に据えた支援（ナチュラルサポート）を基本とすることを提言します。

② 市役所内で共に働くためのモデル就労の推進

昨年の提言で紹介してきた千葉県、八王子市、宇部市などの自治体職場でのモデル就労の場の検討と並んで、特定の間を作らず、横浜市のように知的障害者を事務嘱託員として雇用し、民間就労へのステップアップではなく職員としての育成を念頭に置き、その雇用の実績・検証結果を、企業や他の公的機関ならびに就労支援機関にPR・情報提供し、さらなる障害者雇用推進につなげてゆく取り組みを併せて検討することも必要と考えます。

どの取組にも共通するのは、自治体職員が知的障害者を含むさまざまな障害のある人々を迎え入れ、一緒に働く上での悩みや発見や工夫を、外に見える形で発信できる職場作りです。それは、既に職場にいる身体障害者や病気や加齢等に伴う働きづらさを抱える職員と他の同僚達が、共に働くことをオープンに語り合える職場環境づくりにもつながります。自治体として、共に働く地域づくりのモデルを示してゆく取り組みを提言します。

③ 福祉や医療の利用者が公共サービスの担い手になれるような障害者優先調達法の推進

障害者自立支援法以来、多様な支援の場ができ、選択の幅が広がった半面で、障害者とその支援に関わる人々が就労準備性（就労への近さ）や支援の必要度により振り分けられ、各々の世界が固定化されてゆく傾向も深まっています。

障害のある人々と支援に関わる人々が地域に参加し、他の人々と共に社会的役割を担う機会を創出し、

拓げる必要があります。例えば、障害者優先調達法に基づく物品・役務の発注に際して、施設等の利用者と職員がユニットを組んで、街の中で他の人々と共に公共サービスに従事することを、貴市として進めることが必要です。また、そうした業務を共同して行うための窓口や相互調整のネットワークを組織し、生活困窮者その他の就労困難者と障害者等と共に働く機会を創出する施策として育んでゆくことも併せて提言します。

④ ピアサポートによる就労支援活動の育成・支援

当会では、地域での多様な働き方（職場参加）をベースとした当事者同士の関わり合いを、「ピアサポートによる就労支援活動」と名付けています。上述したように、障害者に限らず、認知症や失語症、片麻痺等の高齢者からも参加希望がありますが、医療機関や施設の方針、あるいは家族の反対等により、挫折したことも多々あります。ひきこもっている若者の中には、「自立のために」ではなく、「アルバイトしてみよう」で自分と折り合いを付けて外へ出始めた例もあります。貴市として、これまで就労支援の対象ではなく生活支援・介護・医療の対象者とみなされてきた人々も含め、ピアサポートによる就労支援を地域に育み、支援してゆくことを提言します。

⑤ 「対象者」とされた人々が共に働く身近な仕事おこし・事業所の支援

ピアサポートによる就労支援のベースとなりうる小さな仕事を身近な地域で開拓・開発し、就労困難な人々に情報提供してつなげてゆくことが大切です。事業所形態をとらない仕事であっても、インクルーシブな社会づくりにつながりうるという認識を共有し、できるところから一步を踏み出すことが必要です。

障害者雇用促進法に基づく就労支援の主要なターゲットである従業員50人以上の事業所以外の全体の9割以上を占める事業所にたくさんの潜在的需要があることは、法の対象にならない他の就労困難者の就労の可能性をも示唆しています。身近な地域のつながりを生かし、高齢者、障害者、生活困窮者、主婦などの就労困難者自身が事業をおこし共に働く事例も重ねられてきました。貴市におかれても、こうした状況を把握された上で、仕事おこしや事業所展開の支援策を検討されることを提言します。

⑥ 貴市の諸計画に反映させること

上記の事項に関し、貴市において障害福祉計画や障害者計画、高齢者保健福祉計画、介護保険事業計画、次世代育成支援行動計画、教育振興基本計画、地域福祉計画、総合振興計画等の見直し時に、反映させられるよう提言します。これらの計画が支援の対象者のみを当事者に位置づけ、その枠組みの中だけで自己完結しないよう、すべての市民がこれらの事項の当事者であることを認識できるよう、関連計画への取り込みを強く期待します。



ピア支援パートナーの 業務日誌 逆井 奈津子

枚数が増えてきたので、人に注意をしたり、物事を教えたりするのはとても大変な事だなと感じました。

一歩一歩、お互い違う障害を持っていますが、成長はしてきているのかなとは思っています。私は、この「支援パートナー」のお仕事をして、本当に今、やりがいを持って出来ています。来年の2月まで頑張りたいと思います。

1月14日(木) 私自身の課題は考えること

今日は、佐藤秀一さんの地域適応の支援パートナーを、一人で担当するのは5回目です。到着して、やり始めはシュレッダーをかける紙がホチキスで止まっていた物が多く、私は、秀一さんの後ろで様子を見ながら、ホチキスを取っていましたが、シュレッダーをかける音で、「あ、集中力はすごくあっていいけど、少し枚数がやはり多いな」という感じを受けました。なので、ところどころ、枚数について注意をしましたが、なかなか聞いて貰えなかったのか、私の説明が悪いのか、つまりそうな時もあり、正直ひやひやしてしまいました。

残り3回ですが、私自身の課題はどうしたら、上手く言葉を選びながら伝え、秀一さんの仕事が少しでも変化が出るかを考える事だと感じました。来週も頑張りたいと思います。

1月26日(木) 初めてひとりで支援

私は今日、地域適応の、シュレッダー作業の、支援パートナーの仕事をしてきました。仕事内容としては、実習生の人の作業を見守りつつ、困った時は助けるようなことです。私は、人に指導をするのが、大の苦手なので、最初は戸惑いました。しかし、実習生の方が一生懸命シュレッダー作業をしているので、私も出来る事はしたいと思い、注意を思い切ってしてみました。

やはり、人に教えたりするのは難しいと感じました。しかし、今後も精一杯、実習生の方を支援していけたらいいなと思いました。そして私も、実習先のスタッフの方とのコミュニケーションを取れる勉強になるので今後も頑張りたいです。

12月17日(木) お互い障害を持っているけど

私は、佐藤秀一さんの地域適応「支援パートナー」を一人で担当するのは3回目でした。午前10時になって、秀一さんの「シュレッダー作業」の実習が始まりました。

この日は、秀一さんは、始まりから、少し枚数を多めに「シュレッダー」にかけていて、機械が止まらないか、少し心配していました。心配してた予感が当たり、機械の紙を通す部分に、紙がつまってしまう、動かなくなってしまうました。私は必死で、つまった紙を取ったりして、3~4分後、やっと紙を取ることが出来て動くようになりました。私は、「もう、分かったよね?たくさん枚数はダメなんだよ」と注意をして、理解して貰った様子でした。しかし、また少し経つと、

1月21日(木) 嬉しかったこと

今日、佐藤秀一さんの支援パートナーを、一人で担当するのは6回目です。今日は10時過ぎに、就労支援センターの方が様子を見に来ました。今日の秀一さんは、いつも通り、集中力があり、枚数も多く入れないで落ち着いて作業をしていました。封筒などは、中に紙が入っていないかの確認や、カードは一枚ずつ、シュレッダーにかけていたので、覚えてくれたんだなと嬉しかったです。

私自身も、パートナーとして、注意や、出来ている部分をきちんと言うことで、コミュニケーションをお互いに、うまくとりながらやっていくことが大切なんだと、あらためて実感しました。後2回なので、もっと頑張っていけたらいいなと感じました。

【事務局より】ハローワークの相談員の方々が世一緒に見学に見えた時、上記の日誌を見せたところ、窓口に来たときの逆井さんとは別人に感じられたようで、すごいですねと驚いておられました。受け手の立場だと不安に陥り話もまとまらない人が、支援する立場になる時、余裕をもって行動したり考えたりできる例はよくあります。新しい自分を発見する上でも貴重な機会です。少子高齢化社会の過重負担による財政崩壊の危機を語る前に、本人の潜在パワーを展開できる社会への転換こそ必要ではないでしょうか。

介護人養成研修を開催しました

介助で車いす移動も安心に

越谷市が進める「全身性（身体・障害者介護人派遣事業）」と「知的障害者介護人派遣事業」について理解を深めてもらうべく、同市のNPO法人「障害者の職場参加をすすめる会」（日吉孝子代表）は市民を対象とした介護人養成研修を始めた。全5回の研修で、12月4日に参加者が修了証書が授与される。（岩波里枝）

同事業は、障害者の付き添いや介助、移動支援などを行ってくださる市民を介護人として登録、利用する障害者が介護人と直接交渉し、サービスを利用できる制度。介護活動は1人につき1時間850円が支給される。2015年3月末現在、全身性障害者の介護人は217人、知的障害者の介護人は155人が登録されている。

派遣事業周知への研修会開催

5回の研修は利用者の講話や介護体験2回が含まれ、研修は理解を深めるまでを目的としている。

介護体験の1回目は同市の大宮北交差点で約10人が参加車いす利用者から、車いすの各部分や機能の説明があった。同館から東武スカイツリーラインせんげん台駅を目指し、同館に戻るルートで移動車いす利用者のほとんどが電動車いすだったが、研修のため手動で行った。2回目は同線大宮駅に集合し、せんげん台駅まで電車に乗って移動同館を目指した。駅の改札口で行き先を告げ、エレベーターを使用、自身が車いすを利用する日吉代表が「01」はホームの電車を待つことをみんなに伝えられたの取扱を体験した。話し掛

けていた日吉さんは「日吉さん、周知とコミュニケーションを取ることは車いすでの日常生活にプラスに働く」と話す。

体験を通して参加者たちは、障害者が何とも思わない小さな段差や歩道上に駐輪された自転車、車いす利用者との通行を妨げて困難にしていることを実感した様子。障害者とともに行動することで、介助の方法が分らないうちも車いす利用者が動かし方を教えられる。「もっと登録を積みたい」などの意見も、車いす利用者からは「介助者か、このことでも安心」といふ声も上がった。

日吉さんは「今回のことが駅の改札口で行き先を告げ、エレベーターを使用、自身が車いすを利用する日吉代表が「01」はホームの電車を待つことをみんなに伝えられたの取扱を体験した。話し掛

埼玉新聞（11月25日）

岩波里枝記者は、第3回、第4回に参加して、道路や駅、電車での介助を実地に体験されました。今後ともおつきあいでいただければと思います。

世一緒とケアシステムわら細工が連携して障害者介護人派遣事業の介護人養成研修を行いました

第1回 10/23(金) 介護制度のあれこれ 簡単な制度の説明と制度利用している人の話



全身性介護人派遣を利用している門間愛さんと、介護派遣、他人介護加算、重度訪問介護を利用している野島久美子さんに、制度利用についてのお話を頂きました。

第2回 10/30(金) 知的介護人派遣制度の利用者と介護人の話



介護人派遣を利用している菊池よし子さんと、知的介護人として菊池さんの介助者をしている宍倉香里さんにお話しを頂きました。

第3回 11/6(金) 介助体験① 車イス部位等の説明 車イスと一緒に動いてみる



参加者の感想：電動車イスを手動に切り替えて押して歩いた。カーブの曲がり方や段差のことを教えてもらった。車イスを押す側と押される側のことを考えるいい機会になった。

第4回 11/20(金) 介助体験② 車イスの人と一緒に電車に乗ってみよう



参加者の感想：これまで車イスの人が電車に乗っているのを見かけたことはあったが、どうやって乗るのか知らなかった。今回の研修に参加して車イスの人の電車の乗り方がよく分かった。

第5回 12/4(金) 修了証書授与



今回の介護人養成研修に参加された方のうち、3名の方が越谷市全身性障害者介護人の登録をしました。また、ケアシステムわら細工の会員となって、介助者として活躍されています。



障害者と地域住民による “身近な仕事おこし”

NPO 法人 障害者の職場参加をすすめる会

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業 (申請中)

ただいま独立行政法人福祉医療機構による平成27年度社会福祉振興助成事業として、標記事業を実施中です。下右の連携事業等と連携・協力して「身近な仕事おこし」を行っています。前号に続き、取り組んだ4つのユニークな仕事をお知らせします。



東京福祉大学・調査依頼葉書の印刷

越谷市の特定非営利活動法人にじさんぼさんの縁で、東京福祉大学の研究のための調査依頼の回答葉書の印刷業務を受注できることになり、職場参加ビューロー世一緒の印刷機を用いて、障害者2人が印刷を行い、納品しました。



市場に出さなくなった柿を収穫し販売

春日部市内の兼業農家・Sさんからの提案で、同家の畑でいまは市場に出さなくなった柿があり、収穫に来てくれば無償で提供することと、障害者3人が参加して収穫し、世一緒の前で露店販売を行いました。



高齢者雇用のカフェから連携の誘い

越谷市内に開店した高齢者の継続雇用の職場でもあるカフェ・サルーテさんから連携の提案があり、当面、重度障害者Hさんの絵を葉書にして同店レジ前で販売開始。今後障害者の雇用も展望してゆくと社長が抱負を語られていました。



地域の葬儀屋さんのポスティング

直葬や一日葬など低廉な料金プランをもつ地域の葬儀屋さんである(株)えびすやさんからお声がかかり、越谷市内でチラシをポスティングしました。7日間にわたり延べ49人の障害者が参加しました。

身近な仕事おこし連携事業所

連携事業所・団体 1



社会福祉法人
つぐみ共生会

連携事業所・団体 2



NPO法人
精神障害者の
自立生活を進める会

連携事業所・団体 3



NPO法人
共に生きる街づくりセンター
かがし座

連携事業所・団体 4



NPO法人
センター事業団北関東事業本部
ワーカースコープ

2016年2月～4月 カレンダー (暫定版ですので、変更の可能性もあります)

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

2月			3月			4月		
行事・仕事	ほか		行事・仕事	ほか		行事・仕事	ほか	
1日 月			1日 火			1日 金		
2日 火			2日 水	当番会議	仕事発見ミッション	2日 土		
3日 水	当番会議	かつぼ午後販売	3日 木	革工芸	水辺ポスティング	3日 日		
4日 木	水辺ポスティング		4日 金	水辺ポスティング		4日 月		仕事発見ミッション
5日 金	水辺ポスティング	差別解消ヒアリング	5日 土			5日 火	面談喫茶準備	ワーク
6日 土			6日 日			6日 水	当番会議	かつぼ午後販売
7日 日			7日 月	仕事発見ミッション		7日 木	革工芸	水辺ポスティング
8日 月		共同受注ネット全体会	8日 火	越谷・水辺の市		8日 金		水辺ポスティング
9日 火	越谷・水辺の市		9日 水	かつぼ店番事務局会議		9日 土		
10日 水			10日 木	革工芸	世一緒doキネマ	10日 日		
11日 木			11日 金			11日 月	園庭喫茶&ゲストーク	
12日 金			12日 土	どよう世一緒		12日 火	園庭喫茶&ゲストーク	越谷・水辺の市
13日 土	どよう世一緒		13日 日			13日 水	園庭喫茶&ゲストーク	
14日 日	新春着物市		14日 月			14日 木	園庭喫茶&ゲストーク	世一緒doキネマ
15日 月	野菜・新春着物市	すすめる会運営委員会	15日 火	野菜	すすめる会運営委員会	15日 金	園庭喫茶&ゲストーク	野菜
16日 火		新春着物市	16日 水	職場参加を語る会	仕事発見ミッション	16日 土	どよう世一緒	
17日 水	職場参加を語る会		17日 木	革工芸		17日 日		
18日 木	革工芸	世一緒doキネマ	18日 金			18日 月		仕事発見ミッション
19日 金			19日 土			19日 火		
20日 土			20日 日		こども夢未来フェス	20日 水	職場参加を語る会	仕事発見ミッション
21日 日			21日 祭			21日 木	革工芸	
22日 月	水上公園施肥	仕事発見ミッション	22日 火			22日 金		
23日 火			23日 水	ピアサポート研究会	仕事発見ミッション	23日 土		
24日 水	ピアサポート研究会	仕事発見ミッション	24日 木	革工芸		24日 日		
25日 木	革工芸		25日 金	水上公園共同作業		25日 月	水上公園共同作業	仕事発見ミッション
26日 金			26日 土			26日 火		
27日 土		交通アクセス埼玉	27日 日		障害者制改セミナー	27日 水	ピアサポート研究会	仕事発見ミッション
28日 日			28日 月	仕事発見ミッション		28日 木	野菜、革工芸	
29日 月	野菜	すすめる会事務局会議	29日 火			29日 金		
			30日 水			30日 土		
			31日 木	野菜、革工芸				

- ・当会は障害福祉サービス事業所(就労移行、就労継続A、Bその他)ではありません。
- ・上記の行事や仕事の中で、参加したいと思うものがあれば、世一緒(048-964-1819)へご一報を。
- ・世一緒は、さまざまな障害や困難を背負う人たちが自身が、他の有志の人達と一緒に運営する事務所です。
- ・就職した人、離職した人、働けない人…ばらばらだけど、時々はお会って、語ろう！一緒に動こう！
- ・木曜の革工芸の日に、パン作りをやることもあります。

世一緒 スタッフ日記



世一緒スタッフは離職後や未就労で、働くイメージが持てない人を含め、地域・職場への各々の参加の仕方を体験を通して探るため世一緒に関っている人達です。サポーター（非常勤やボランティア）の支えを受けて、世一緒の当番（ピアサポーター実習）や仕事発見ミッション（事業所訪問）、グループワーク等を行っています。障害や病気のある人もない人もいます。

早く世一緒で仕事したい

青木 繁明

私は現在、デイケアに週5日（月曜日、金曜日）毎週でています。いろいろのかだいに挑戦しています。毎週ちがうのですが、木金は、書道、月水は、グループ活動、火曜は卓球という流れです。家にいる時は、散歩がてらマクドナルドや駅のパン屋の奥で、モーニングを取りながらコーヒーを、いただいています。たまに知人と親しく話し込んだりしています。年齢も近いので、1、2時間話しています。部屋に帰ったら、洗濯したり、テレビを見ています。

部屋の方達とは、農園とか合同ミイティングとか家賃支払いの時に合流して過ごしています。最近このままでいいのか常に考えてることがあります。旅行がしたく彼女が、出来れば、いいなと考えたり悩んだりしています。司法書士が、はいりましてが少しづつたまってきていますので、心配していません。早く世一緒の人達と仕事をしたいです。

最近のこと

黒田 正巳

自分が思う世一緒は、前はもつとしゃべる人たちがいて、いろいろやる事があった時は、サ

ポターの人の力もかりました。がうまくやってみました。今来てる人は病気で話ができないし、こつちがなにか言わないかぎり話しもしないし、何もやらない状態で大変です。それで人としやべらいからいるのかわからない時もあります。自分は、仕事やめてから世一緒に来ているんなとかかわったり、何かしてなかったらつまらない人生をおくってたような気がします。

一人で抱え込まないように

日下 淳

初めまして、私は、日下といま

ここに来たのは、支援センターからの紹介で、来ました。自分が抱えている悩み事を相談したり、一人で抱え込まないように、パン作りにも参加しました。パン作りしていて、もつといるんな作業したりしながら自分が抱えている障害とかに向き合いながら、色んな出会いを大切にして行きたいと思おうので宜しくお願いします。

サッカーとソフトボール

秋山 俊也

サッカーがたのしかったです。サッカーがゆうしようできるとうれい。おかあさんのしんせきのひとがなくなつてびつくりしました。しごととはやくやりたいです。サッカーがやつてうれしかった。

ソフトボールをやつていたのでたのしいです。ソフトボール3月に大会があるのでがんばりたいです。あぶらえことわつてきました。ソフトがさいたまスタジアムであるのでがんばります。サッカーがないときソフトボールがやりまます。

世一緒に来て就職しました

駒井 りか

今までおぎしま園に行つてた時は、作業を評価高くなるまで集中して取り組みました。

そして今年の9月末でおぎしま園を辞めて、世一緒に参加してる中ボステイングに1回参加したり、仕事と発見ミッションに参加した時は直井さんからの指示を脳であんきして車からおりた後店回つて定員さんと店長さん達に紙を配りながら「見学と体験させてもらえますか」とお願いしました。

結の会・あしたや見学交流

山崎 有子

そして店長さんと世一緒の直井さんに語らせて仕事の発見が出来ました。反省会では直井さんからも長谷川さんからも「駒井さんは積極的にやれてすごい」とほめられました。その後は私もチラシの募集見て連絡して面接を受けました、それで「障害者としてあつかつてもらえますか」と言つて履歴書出したら1週間後に「可能です」と連絡が来ました。これからの私は、越谷花田店のマルサンで青果の袋詰め作業をマイペースに行いながら慣れた手つきで頑張つていきます。

結の会では、私が前に通つていたしつで、せつけんづくりがすごくなつかしいかつたでした。良くおちると言われましたけど私も欲しかつたけど、お金が無かつたのであきらめました。お昼のランチがすごくおいしいかつたでした。あしたやではしんせん野菜がおいしそうでした、無農薬で出来ているのかなと思ひました。ぜひ色々な交流をしたいです、遠くは千葉とか行つたら大阪のこうりゆうをしたいです。楽しいかつたです。又いきたいです。今日一日ありがとうございます。勉強に成つて良かつたです。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。ご協力をお願いします。ありがとうございます。

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒内（ハローワーク斜向かい）
048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www5b.biglobe.ne.jp/~yellow/

